

子どもと女性の犯罪被害と防犯まちづくりに関する基礎的研究－広島市と事例として－

広島県庁 学生会員 ○竹下 惇那
広島工業大学 正 会 員 今川 朱美

1. 目的

本研究では広島市を対象に、子どもと女性の犯罪発生の背景と要因などを調査し、犯罪を誘発しやすい環境や空間構成について考察する。

2. 研究の概要

広島県警察が認知している 2019 年 4 月から 2022 年 12 月の女性と子どもの性犯罪・声かけ事案等の犯罪発生箇所を用途地域図上に示し、土地利用との関係を分析した。また、協力を得られた広島文教大学附属高等学校(以下女子高)の生徒にアンケート調査、広島市の大学(13 校)に通う女子大学生と 20 代女性に WEB 調査を実施し、犯罪経験箇所と犯罪不安箇所について独自にデータ収集を行った。女子高のある可部地区では、現地調査も行ない、広島都心と五日市地区では人口データ上及び流動人口データ上に分布を示し、公立小学校の児童 1 人あたりの犯罪発生率を算出し、人口と犯罪発生の関係を確認した。

3. 市街地における犯罪発生状況と防犯（広島都心と五日市地区）

犯罪発生箇所より、女性を対象とした犯罪は、商業地域や主要道路などに集中し、子どもを対象にした犯罪は住所地域(生活圏)で多く、広く分布している。犯罪が多発している箇所と犯罪不安を感じる箇所は必ずしも全て一致しなかった。

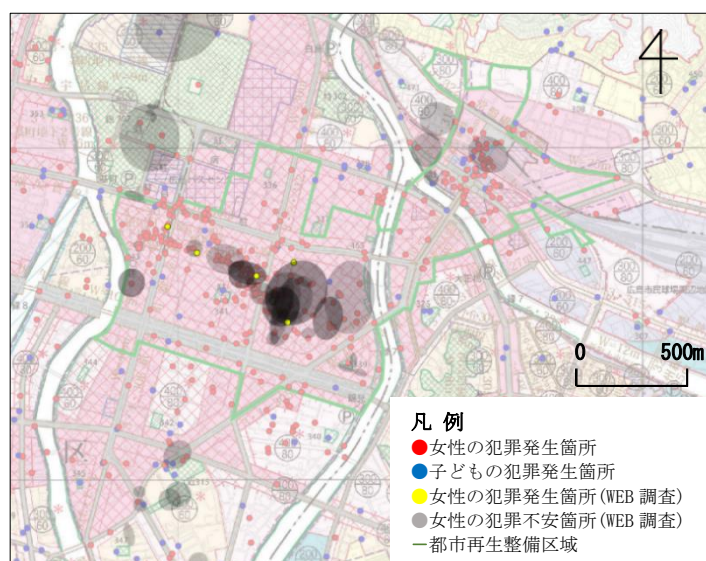


図1 広島都心の犯罪発生箇所(2019. 4-2022. 12)

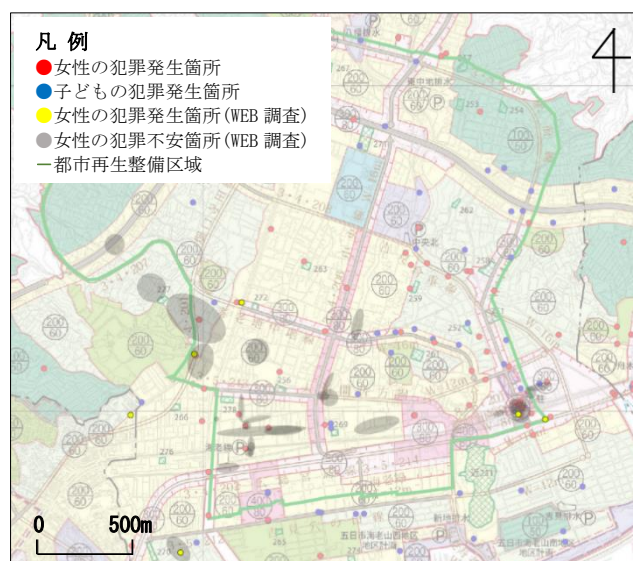


図2 五日市地区の犯罪発生箇所(2019. 4-2022. 12)

犯罪の発生場所は居住人口の影響はなく、携帯電話の GPS データによる流動人口と関係がみられた。しかしながら、流動人口と犯罪発生数に必ずしも正の相関があるとはいえず、特に子どもの犯罪は流動人口が少ない箇所でも多発していた。これは、子どもの携帯電話の保有率が低く、有効な分析が行えなかったためである。そのため、子どもの犯罪発生状況については、広域ではなく小学校区での状況を考察することとし、公立小学校の児童 1 人あたりの犯罪発生率を求めた結果、全校生徒数が多い小学校区での犯罪発生率は低いことが確認できた。

キーワード 防犯まちづくり、犯罪発生要因、犯罪機会論、道路環境、土地利用

連絡先 〒731-5193 広島市佐伯区三宅 2-1-1 広島工業大学工学部環境土木工学科 TEL082-921-6131

4. 可部地区における女性被害状況

女子高周辺で犯罪被害を受けた箇所及び、犯罪不安を感じる場所についてアンケートを実施し、275 人から回答を回収した(回収率 80%)。アンケート調査結果より、危ないと感じるエリアを重ね、不安を感じた生徒が多いほど、色が濃くなるよう示した(図 4)。確認した犯罪被害箇所は、不安を感じている箇所に含まれていることが分かる。また、不安を感じる場所は、公園や公園前の街路が多く挙げられている。

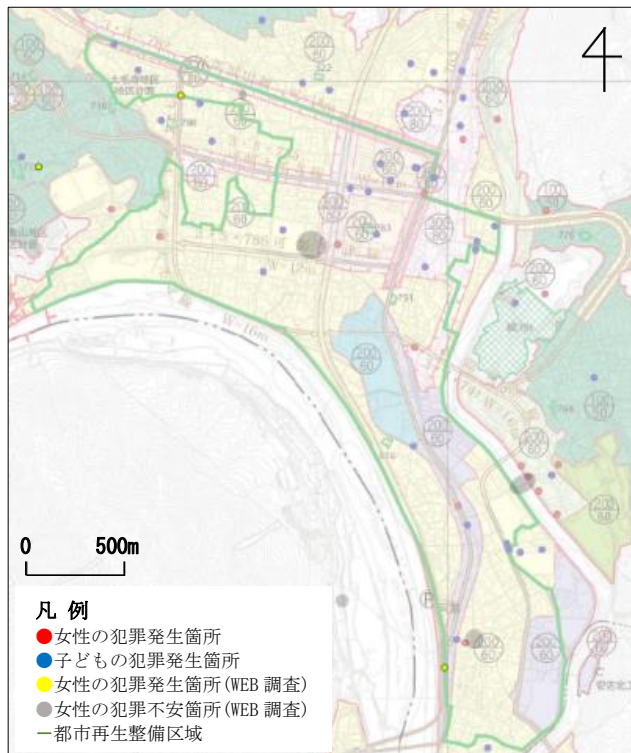


図3 可部地区の犯罪発生箇所(2019.4-2022.12)

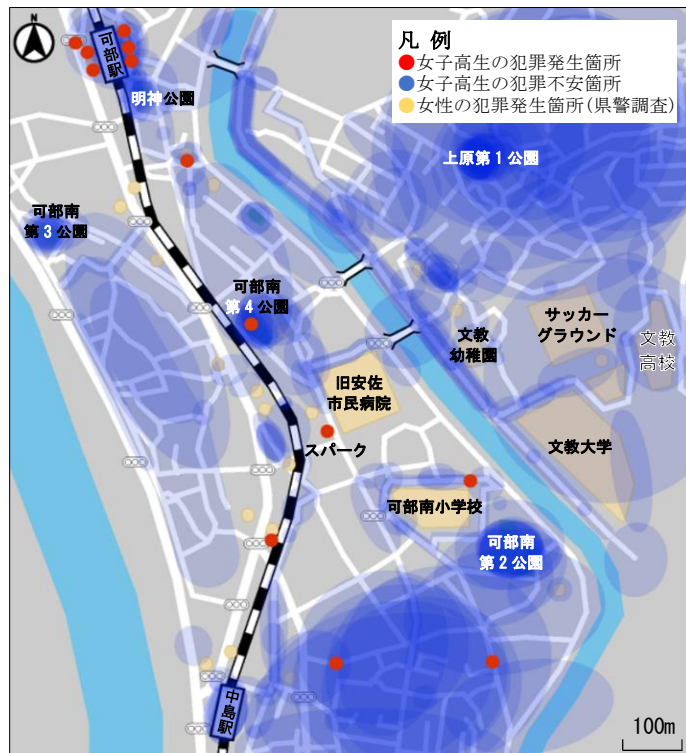


図4 犯罪発生箇所及びアンケート集計結果

5. 結論

犯罪を減少にむけた防犯まちづくりについて考察を行うには、犯罪箇所を把握することは必須であるが、特に女性被害については、被害届がなされないことが多く実際の犯罪発生箇所が不明となっている。そこで、学校や地域のコミュニティでアンケートを実施し、実際の犯罪発生箇所と犯罪不安箇所を把握する必要があると考える。犯罪が起こる箇所は市街地類型ごとの特性を把握した上で、必要箇所での領域性と監視性について分析を行えば、予測可能であることが確認できた。防犯まちづくりには、①領域性確保のためには、フェンスやガードレールの設置や、コミュニティ道路などの道路整備を、②監視性確保のためには、防犯カメラやセンサーライト、街灯の修繕や設置、植栽を管理する等が有効である。道路幅員が狭い箇所では領域性の確保が難しいため、監視性の確保が有効である。地域や環境に応じた対策を検討する必要がある。更に、地域環境の問題(街灯の不具合等)への気づき、地域環境の整備(植栽の管理やゴミ拾い等)も大切であり、これら全て地域住民の協力が必要不可欠である。防犯まちづくりは、行政や警察、住民等、様々な関係者の連携が求められる。

参考文献

- 1) 小宮信夫「なぜ『あの場所』は犯罪を引き寄せるのか」株式会社青春出版社、2015
- 2) 雨宮護・島田貴仁「都市の空間構成と犯罪不安の関連 -地域特性を考慮した防犯まちづくりにむけた基礎的研究-」(社)日本都市計画学会 都市計画論文集 No. 44-3 p. 295-300, 2019
- 3) 小宮信夫「犯罪学における犯罪原因論と犯罪機会論」pp781-802, 法学新報 123 巻, 2017
- 4) 小出治・樋村恭一「都市の防犯 -工学・心理学からのアプローチ-」(株)北大路書房、2003